

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105920		
法人名	有限会社 和(なごみ)		
事業所名	グループホーム やすらぎ東古松		
所在地	岡山市北区東古松南町4-35		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370105920&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自分の親が安心して預けられるグループホーム。 そして入居してバックを支えている家族も将来入りたいと予約したいホーム。 現在入居している方々に感謝されるホーム。(先日地区の小学生が取材に訪れて「こんな所が一杯増えたら家族も楽で私も楽しいのにな」と入居者が言っていた) そして退去後も家族の方が訪れるホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームを訪問し続けている私は9人という集団のあり方が当たり前になっているので、このホームの6人の醸し出す雰囲気は毎回「この位の暮らして良いものだ」と考えさせられている。色々な点で難しい問題が生じるだろうから何処でも真似はできないだろう。しかも退去者が出て時間をかけて次の入居者を選んでいる。街中で限られた敷地内のホームだから、「共同空間が狭い」との難点を逆手に取って、例えば「人と人の距離感が近く親密な関わりができる」「我家の共用空間を近くの公園や散歩道に広げ、毎日2回は出掛ける」「室内での車椅子は使いづらいので、シルバーカー等を利用して自分の足で歩く」等々、ユニークな発想からこのホーム独自の日常生活を謳歌しているようだ。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のみならず往診に来て下さっているドクターが将来はこのホームに入りたいと言って下さっているし、近くの住民も「入る様になったら入れて下さいね」と言っている。	このホームの立ち上げの理由が「自分の母をここで看たい」という思いからであり、その夢が実現している。職員も、自分や家族が入りたいと思うホームを常に念頭に置いて、日々、より良いケアを目指して努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達が(大人も子供も)時々庭になっている柿や田舎から送って来たと言ってみかんや野菜の差し入れして下さったり犬や猫と一緒にホームに立ち寄って下さる。	事業主が元々この地域の住民であったし、実の母の土地という事で、地域とのつながりの基盤はあったが、日常的なお付き合いが毎月のように実施されている。地域行事もよい交流が見られ、利用者はこの住民になりきっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回催される地域の人達の会合に出席、情報交換している。次回は学区の支援サブセンターの人を招いて話をさせて頂く予定になっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の人に介護保険の詳しい話をしたり疑問点についてもいつも誠意を持って答えたり話し合いをしている。	ホームの中で会議を開催しにくいので、毎月開催される地域の集会所での会合に加えてもらっている。町内会長や民生委員、地域住民等参加者にホームの現状報告をしたり、行事への参加打ち合わせ等、情報交換をよくしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは地理的に近く(同じ小学校区)でもあるので度々密に連絡を取っており、担当者とは全てにおいて把握して頂いている。	市役所が近いということもあって、どんな事でも分からないことはすぐ質問をして指導を仰ぎ、アドバイスをいただくようにしている。関係の職員も丁寧な指導をしてくれ、非常に良い協力関係がみられる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠しておらずドアホンをしないでいきなりドアを開いて訪問される事も多い身体拘束は一切ない。	利用者の数が少ないという事もあって見守りや寄り添いは、他のホームと比較しても行き届いていると思われる。身体拘束の対象となるような行為や雰囲気は全く感じられない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などする必要がない優秀な職員ばかりなので上手く相手を受け入れ会話でコミュニケーションが出来る様な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は常に学ぶ機会を持ち近隣のグループホームと連絡を取り情報交換しているし、それらを活用出来る様支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員もあらゆる方向にアンテナをはり情報を共有し運営に反映させている。又家族にも出来るだけホームを訪問して頂ける様こまめに電話をして情報を流す様にしている。	特別な事情がある人を除いて、家族はよくホームを訪問してくれるので、その時に十分なコミュニケーションが図れるよう配慮している。玄関に意見箱も設置している。利用者にも意見や要望を言ってもらえるよう話しかけている。	家族との意見交換はもちろん面会時に良くなされているようだが、全家族に伝えたい事や意見を聞いて反映させたい事等、「たより」や「ご連絡」の形で文書で渡すようにしてはどうか。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見や提案を聞いてその都度すみやかに反映させている。又、時々外で食事をしながらのミーティングもして話し易い雰囲気も作っている。	職員構成等の都合もあって全職員参加の会議が中々できないので、管理者が個々によく話し合ったり意見を聞くようにしている。ミーティング記録も綿密に記されており、不参加職員も共有できるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ休日等の条件を十二分に取り入れ管理者は努めている。個々の職員が力を出し切れる様に職場環境条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人が研修で学んだ事を職員が職場で発揮できる様又色々な事を深く考える様にトレーニングしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームやデイサービス、小規模多機能の業者の方のネットワークで助け合ったり教え合ったりお互いに協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからかなりの時間、特別に余分な人員を配置して早く慣れて頂く様配慮している。入眠が中々出来ない人には添い寝もしたりして安心してもらっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には家族に頻繁に電話等で連絡を入れ状況報告をして不安をなくす様に努めている。又細かい事でもこまめに情報を電話で入れている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今一番望んでいるサービスを家族の身になって対応に努めている。例えば内科・皮膚科・歯科の診察は家族の代わりに支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべくして差し上げるのではなく自分のやりたい事を尊重して見守りながらして頂いている。例えば洗濯量など出来ない人でも支援しながら一緒に手伝ってもらっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に頻繁に連絡をとり共に見守ろうと呼びかけている。又誕生日などには家族も一緒に祝いの席について頂ける様頼んだりしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい様に支援又連れ出して頂いて途切れない様にしている。又連れ出しが難しい家族に代わってこちらからドライブ等連れ出して馴染みの人達に会える様配慮している。	毎日散歩している公園では、ここが地元という利用者はかつての馴染みの人達とよくお喋りをして楽しんでいる。昔からの近所の友人・知人も度々ホームを訪問してくれているので嬉しいという声もあった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々トランプや他のゲームを一緒にして連帯出来る雰囲気を作り出している。皆と一緒に歌を歌ったりして楽しんだり個々が好きな事をして頂いて(例えば手芸や塗り絵・写経等)個人を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻ったり他の施設に移っても訪問してその後の様子を確認している。他の施設に移って亡くなった方も家族が盆暮れに訪ねて来て下さっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を取り入れそれに添う様努力している。例えば家事が得意な人には洗濯畳や掃除を手伝って頂いたり、そうでない人は脳の刺激となるジグソーパズルや百人一首・手芸・写経等で楽しんで頂いている。	一人ひとりの「できる事・できない事」をしっかりと把握し、数多くの興味を持ってもらえそうな趣味・ゲーム等を準備し、本人に選んでもらい楽しんでもらっている。何か手伝いたいという人には家事をしてもらう等、本人の気持ちを第一としている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から出来るだけ詳しく聞き取りそれらに合わせて好き嫌いもなるべく希望に添う様にしていていつの間にか嫌いなものも無くなっていく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調に合わせてなるべく活動的に過ごして頂く様努力している。朝は毎日室内で体操風船バレー等で体を動かし午前と午後の2回に散歩は車椅子の人、シルバーカーの人、杖の人とその人に合わせている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの家族、本人の意見を尊重、職員のディスカッションをしてそれらを反映して介護計画を作成している。	ケアプランは職員の気付きもよく聞いてケアマネージャーが作制している。家族からも意見を聞いているが「ここに居たら家ではできない色々な事をしてもらえて」と言う感謝の言葉が多いと聞いた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の共有でその都度気付いた事は連絡ノートや会議録で詳しく情報が共有され密に連絡を取って介護計画を作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で対応出来ない様な時でも管理者がそれを補いサポートしている。 例えば入院しても毎日病院に顔を出し洗濯物はホームで洗って病院に持って行ったり通院もホーム側でする事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2カ月に1度ぐらいある町内の行事にも積極的に参加しており町内の一員としての役割を楽しんでいる。 例えば地域の春と秋の大掃除・盆踊り・地藏盆・お祭り・もちつきに入居者も参加している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは深夜でも携帯で連絡が出来る安心して任せられ適切な医療を受けられている。ホーム側からも密に連絡してどんな症状も見逃さず共有している。	ホームと連携しているかかりつけ医とは良い協力関係にあり、殆んど往診で対応できている。ドクターの往診記録もある。他の診療科については、現在は家族の無理な時は管理者が受診付き添いをしている。	内科はかかりつけ医の往診で適切な診療を受けられていて良いが、内科以外の診察の場合、家族の付き添いもして貰える方向で検討したい。受診が多くなると職員の負担が増えてくるし、可能な家族には関わりを持つチャンスともなる。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はプロの気づきで適切なアドバイスがあり即行動が出来る。 例えば薬が変わったりした時など副作用の出入りに注意して観察、ドクターと協力して処置出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は家族以上に病院とは密に連絡を取り家族に代わって洗濯物の交換等ホームで行っており主治医からも家族と同様に扱ってくれて情報も家族と同時に下さっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて今後の事は家族と密に連絡をとりその時々状況に即して支援に取り組んでいる。	入居時にこのホームでの生活のあり方について本人・家族と話し合い、じっくり検討して入居を決めているが、重度化した場合の事も視野に入れて話している。ただ現在の所、ターミナルケアに関するマニュアル等までは作成していない。	全てのホームが看取りをすべきとは思わない。このホームのあり方、方針を良く話し合い、基本方針を定め、「原則としてどう対処するのか」文書にして利用者にも通知しておいた方が良いのではないだろうか。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターの指示を仰ぎ救急車が来るまでボタンタッチ出来る様血圧等色々な情報がすぐ届けられる様職員も訓練出来る。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての部屋より出口に直結しているので迷わず時々の訓練と同じに避難できる。 年2回の訓練では短時間で避難出来ており体の不自由な人には職員がつき自分一人で避難出来る人は声かけしながら訓練している。	年に2回利用者も参加して避難訓練を実施している。地域の消防署の指導ではこのホームは問題ないだろうという事であったが、近隣の人達がこのホームの存在をよく知り理解し、何かの時に協力してもらえよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は年長者に教えて頂く様に誇りを損なわない様声かけをしたり又なるべく昔の元気だった頃得意だった事を聞いて自信を取り戻してもらっている。	午後の「レク」の時間の後で中国語会話が聞こえた。長年北京に住んでいた さんの指導で職員が生徒だ。職員が注意を受ける場面にもあった。年長者を尊敬し、その人の誇りが大切にされているなあと感じた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様にしてもらいたいのか時々希望を聞いたり喫茶店等にも連れ出したりしている。外食も時々行い後楽園等への外出もその日のお天気で決定したり出来ている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前・午後と雨の時以外は散歩に出るが行きたくない時はホームにいて他の事が出来る様希望に沿っている。又家族と一緒に出かけたりホームから祝事や法事にも出席したりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどんな服が良いのか個々に聞き選んでもらったり時々マニキュアやお化粧品も職員が手伝って頂くとても楽しそうにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事は味はもちろん色でも楽しんで頂き希望を聞いて希望に添った献立にしたりしている。毎月1日は赤飯、行事会はお寿司で御馳走を作っている。又誕生日などは家族と一緒に会食して頂いている。	毎回の事ではあるが、このホームの「食べる事」に対する思い入れとその実践には頭が下がる。途切れることなく続いている献立日誌からも「美味しいからここでは全部食べる」の声からも、立派なアルバムからも食事を楽しんでいる様子が分かる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなるべく多く取って頂ける様三度の食事以外にも10時・15時のおやつ以外にも度々口にして頂く。栄養的には1日に30品目を摂取出来るのを目安にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っておりその都度入れ歯のチェックも行っている。又週1度は入れ歯洗浄液で清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを職員が把握して声かけして全員トイレに誘導しており失敗を極力少なくしている。入居の時紙パンツだったのが布パンツや失禁パンツに改善される例が多い	排泄支援に職員がどの位力を入れているのか、申し送りノートや会議録からもよく理解できる。「出来る限り自分の力で」や「パットでなく布パンツで」「尿具対策」等、個別によく話し合い検討している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の他便が出易くなる薬でこまめに調節出来ているので個々に排便で困る事は殆どない。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が望ましいが隔日には必ず入浴。又排便等により連日も実施。ゆったりしたい人には個々にそって歌を歌ったり楽しくおしゃべりしながら入っている。	毎日入浴の場合もあるが、少なくとも隔日には入浴する。体調管理や本人の希望にも配慮しながらの入浴支援を行っている。入浴に於いても「出来る事・出来ない事」の見極めを大切に支援を心がけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもベットで休息出来るがなるべく日中はリビングで過ごして頂く為、夜は安眠出来ていて昼夜逆転する様な事はない。もしその兆候があればドクターと連絡を取って軽い眠剤で殆ど解決しており基本的には薬は少なくしていく方針を取っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと密に連絡を取りながら用量も抜いたり追加したりと変化に応じて支援している。症状の変化には管理者に即報告がありドクターより受診の必要があればすぐ連れて行き診察して頂く。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	町内の行事に参加したり誕生会や外食・お花見等きつくない様に気を配りながら支援している。又編み物や刺繍の完成で達成感も味わって頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前・午後2回雨でない限り散歩に出かけ町内行事にも積極的に参加し顔馴染みとなっている。喫茶店・友人宅・病院への外出も家族同様に支援している。家族の祝事や法事等も積極的に(ホームで送り迎えをしたりして)出席出来る様支援している。	日常的に外出し近所の(公園等の散歩や買物)がこのホームの一番の特徴と言っても良いだろう。自慢したい食事の右に並ぶのがこの外出支援。おかげで足腰の弱い人・風邪を引く人もほとんどなく、皆さん元気いっぱいだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にホームより職員と一緒に連れだっ て出るがそれぞれに欲しいものを買って頂 きホームで支払いしている。すべてホームの 食費として支払い本人から頂いていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時は電話をかけて出て頂いたり 手紙を書いたものをポストに入れたり支援 している。又かかってきた電話も電話口に出 て頂く様にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にリビングを飾りその飾り物も一緒に 作成したりしている。花々も庭に植えたり室 内に生けている。夏には庭に野菜も植えて 実りの楽しさを味わって頂いている。	狭い共用空間は決してマイナスばかりでは ない。机や椅子を支えにしながらトイレへ自 立歩行できるし、お互いの声や表情は皆しっ かりと伝わる。一人になりたければ居室があ る。玄関や壁には楽しい作品や写真が見ら れ、床暖房の柔らかな暖かさも良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	空間的には余り広いスペースはないが同じ テーブルの人との話で職員は見守りしてい て話に花が咲いている時は聞き役に徹して いる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	自分の家で使って頂いた物を持ちこんで頂 き安心して居室で過ごして頂ける様に支援 している。読書の本、趣味の本など家 族も自由に差し入れている。又仏壇の持ち 込みもされている方もいる。	ホームの備え付けのタンス以外、ベッドや 使い慣れたものを持ち込んでもらっている。 自宅の暮らしの延長として仏様をお祭りした り、家族の写真や飾り物を置いたり、壁に掲 げたりしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	職員に余力(通常の1.5~2倍)があるので ゆったり見守りが出来余りこちらが手を出さ ずなるべく時間はかかっても自立に近づけ ている。又トイレには「トイレ」と書き「洗面 所」や各個室に名前を書いて判り易くしてい る。		